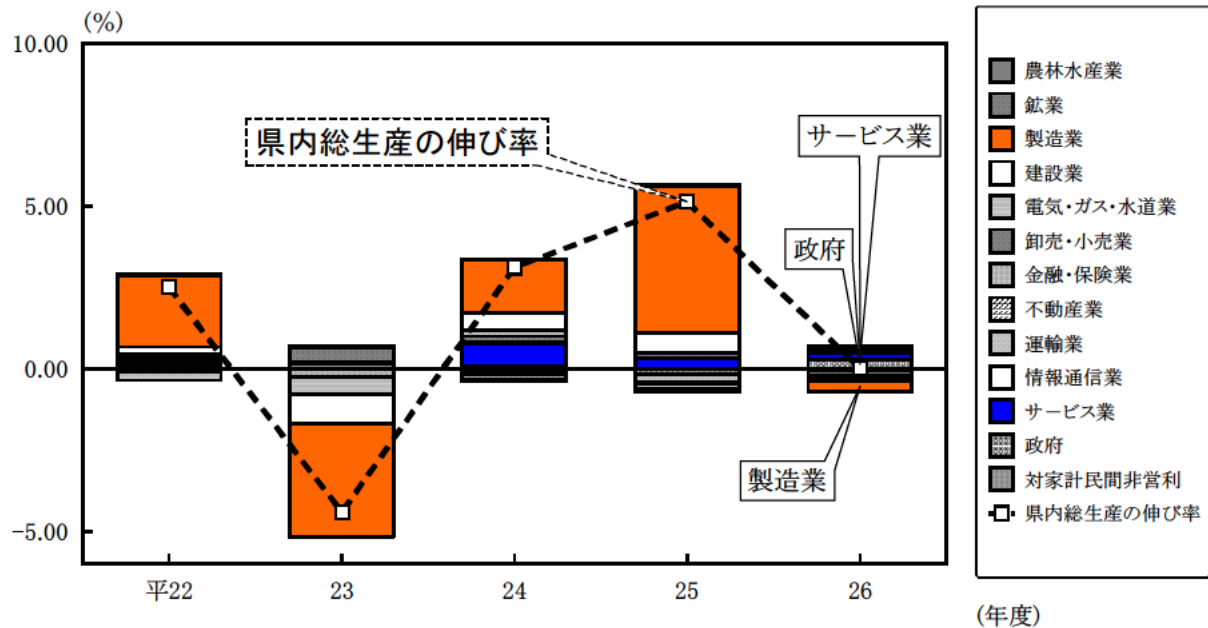


## II グラフでみる三重の経済

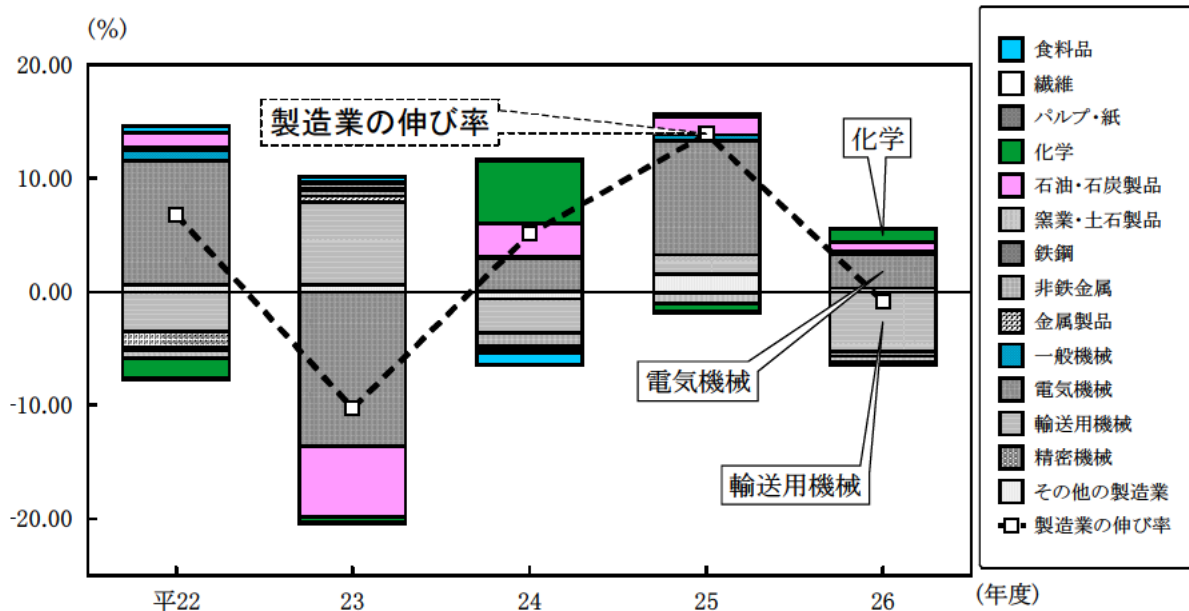
### 1 経済変動の要因分解

図II-1 県内総生産（生産側、名目）の伸びと経済活動別寄与度



平成26年度の名目経済成長率は0.01%で、政府サービス(寄与度+0.28%)やサービス業(寄与度+0.21%)がプラスに寄与しましたが、製造業(寄与度-0.28%)がマイナスに寄与しました。

図II-2 製造業の伸びと業種別寄与度

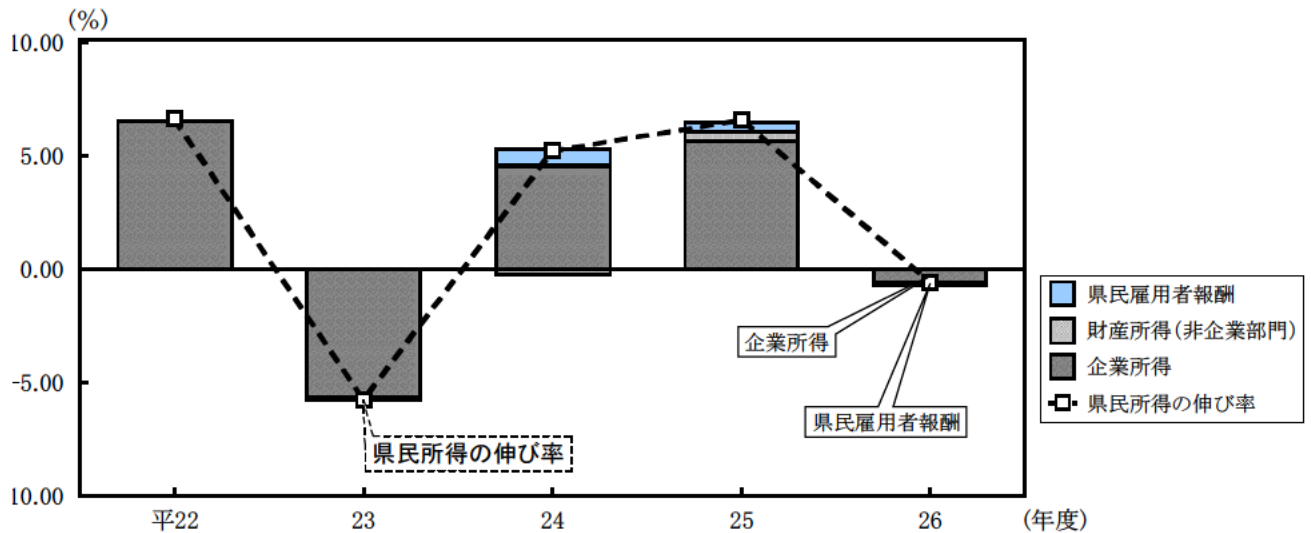


製造業の伸び率は-0.8%で、電気機械(寄与度+1.0%)や化学(寄与度+0.4%)がプラスに寄与していますが、輸送用機械(寄与度-1.8%)がマイナスに寄与しました。

寄与度…全体の変動に対して、各構成項目の変動がどの程度影響を与えているかを示す指標で、各寄与度の合計は全体の伸び率と一致します。

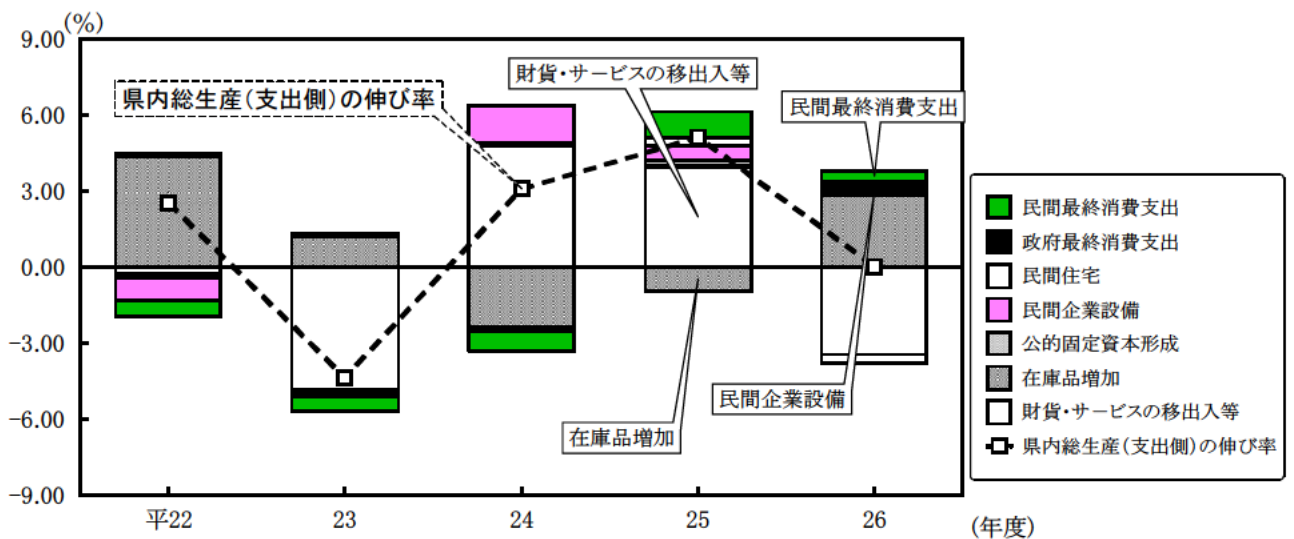
$$\text{寄与度} = \text{前期における構成比} \times \text{当期の前期に対する増減率}$$

図Ⅱ-3 県民所得（分配）の伸びと項目別寄与度



県民所得(分配)の伸び率は-0.7%で、県民雇用者報酬(寄与度-0.1%)、財産所得(寄与度-0.0%)、企業所得(寄与度-0.6%)となりました。

図Ⅱ-4 県内総生産（支出側、名目）の伸びと項目別寄与度

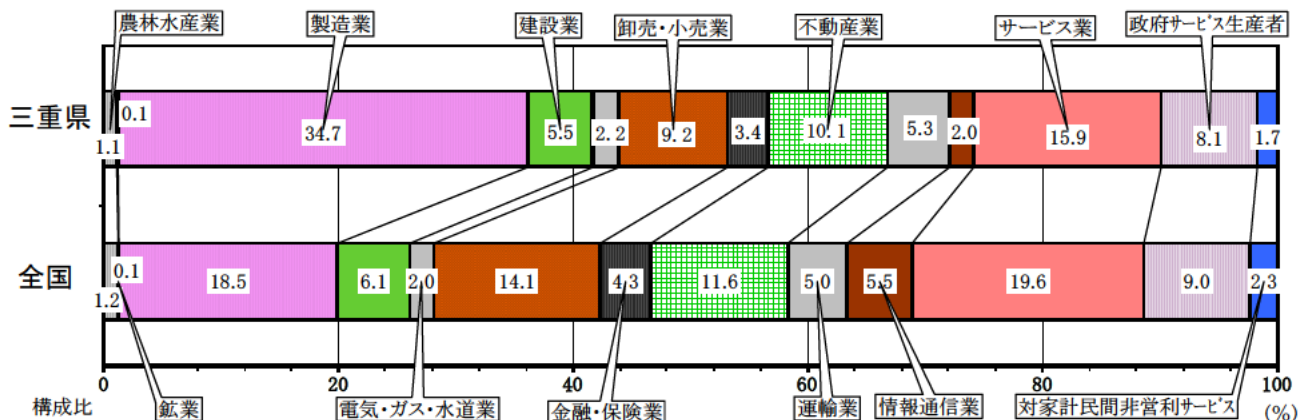


県内総生産(支出側、名目)の伸び率は0.0%で、民間最終消費支出(寄与度+0.4%)が2年連続でプラスに寄与したほか、財貨サービスの移出入(寄与度-3.4%)がマイナスに寄与しました。

## 2 三重県の産業構造

### (1) 経済活動別の構成比

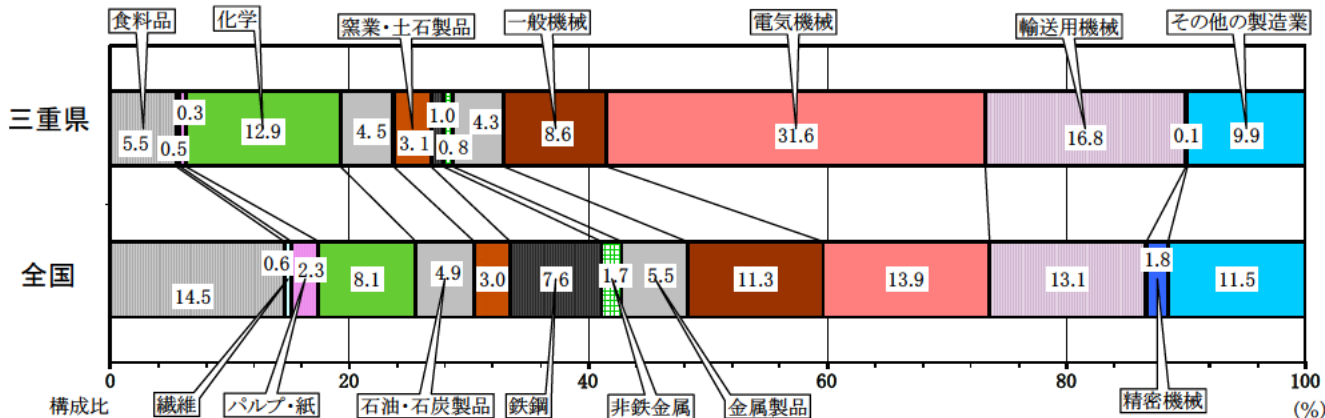
図Ⅱ-5 経済活動別の構成比



経済活動別に構成比をみると、製造業が34.7%で最も大きな割合となっています。次にサービス業が15.9%で、製造業と合わせると県全体の50%以上を占めています。全国と比べると、製造業は全国より高い割合となっていますが、サービス業や卸売・小売業は全国より低い割合となっています。

### (2) 製造業の業種別構成比

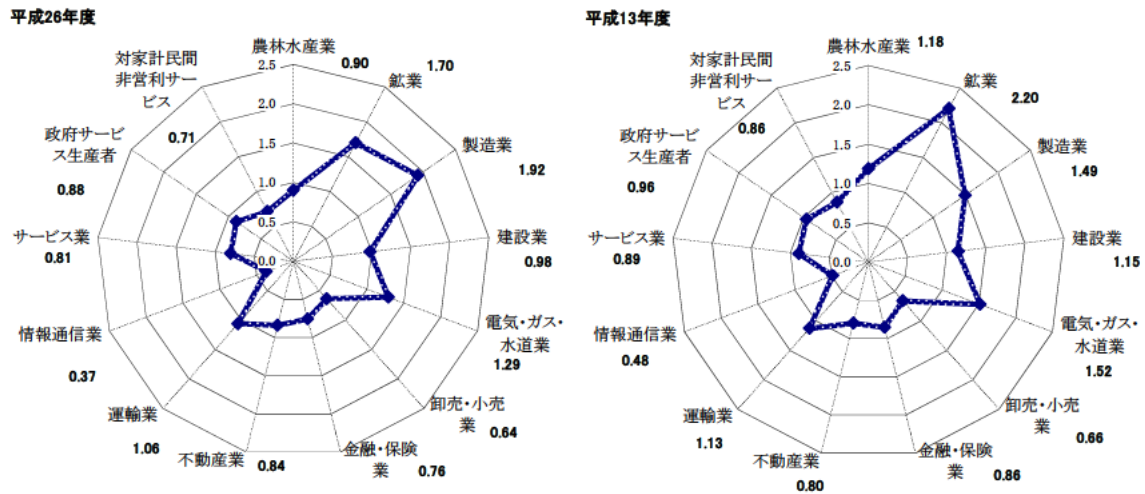
図Ⅱ-6 製造業の業種別構成比



製造業の構成比を業種別にみると、電気機械が31.6%で最も大きな割合となっています。次いで輸送用機械が16.8%、化学が12.9%などとなっています。全国と比べると、電気機械、輸送用機械や化学で全国より高い割合となっています。

### (3) 経済活動別の特化係数

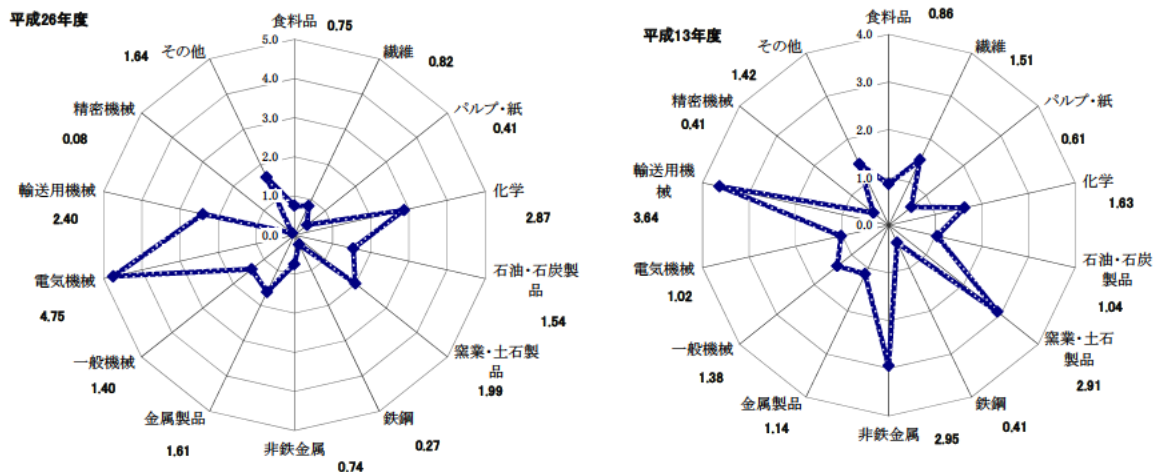
図Ⅱ－7 経済活動別（平成26年度、平成13年度）



本県の産業構造の特徴を、全国を1とする特化係数で見ると、製造業が1.92で最も高く、電気・ガス・水道業、運輸業などで1を超えています。  
また、平成13年度と比べると、製造業や不動産業などは上昇しましたが、サービス業、農林水産業、電気・ガス・水道業などでは低下しました。

### (4) 製造業の業種別特化係数

図Ⅱ－8 製造業の業種別（平成26年度、平成13年度）



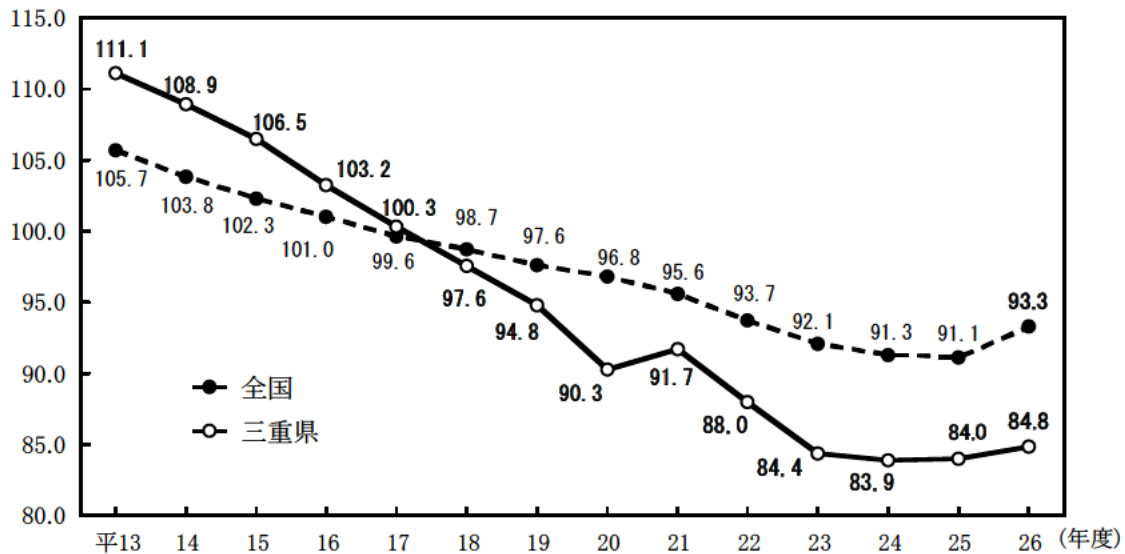
製造業の業種別に特化係数を見ると、電気機械が4.75と最も高く、化学や輸送用機械が2を超えています。  
また、平成13年度と比べると、電気機械が著しく上昇していることがわかります。

特化係数・・・産業別構成比などが全国と比べて高いか低いかをみるもので、1.00 を超えると、全国水準より比重が高く、その産業に特化していると言えます。  
ここでは、特化係数 = 産業別構成比(三重県) / 産業別構成比(全国) としています。

### 3 デフレーター（連鎖方式）

図Ⅱ－9 デフレーターの推移

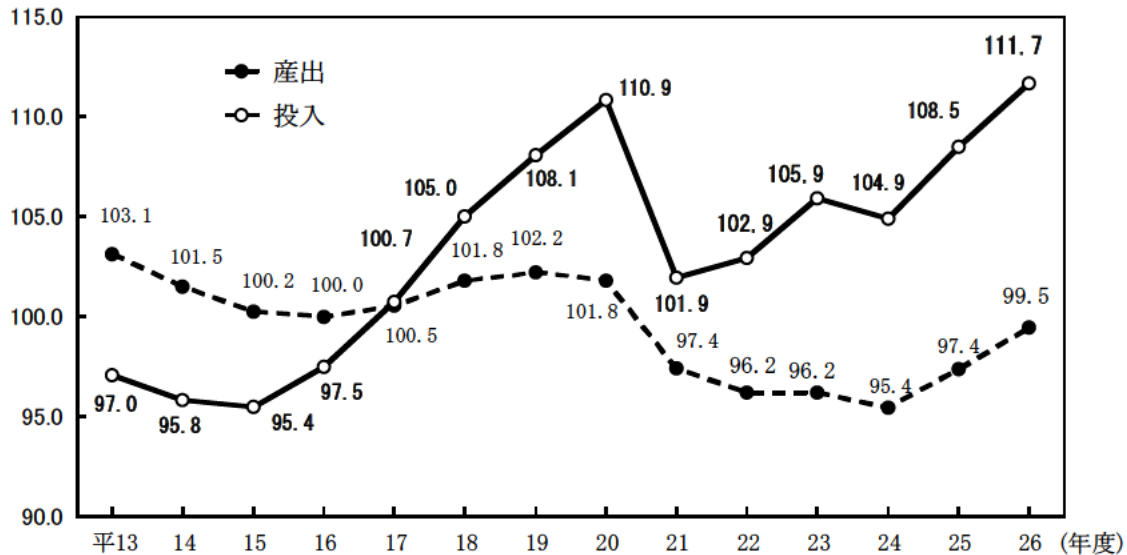
(平成17暦年=100)



平成26年度のデフレーターは平成25年度に続き上昇し、2年連続の上昇となりました。また、全国と比較すると、平成26年度で8.5ポイント下回っています。

図Ⅱ－10 デフレーター（投入、産出）の推移

(平成17暦年=100)



平成26年度の産出のデフレーターは2年連続の上昇となりました。また、投入も同じく2年連続の上昇となりました。



(参考2) 統合勘定

(単位:百万円)

